

学級の一人ひとりにもたせたい構えは、何でしょうか？

学級づくりをする上で子ども一人ひとりにもたせたい構えは、何でしょうか？

自分勝手な姿が多いとなかなか学級がまとまりません。そこで、学級をまとめるために、学級全員で遊びや話し合いなどを行います。つまり、一人ひとりにもたせたい構えは、学級の一人ひとりの自覚です。しかし、これらの活動をすれば、まとまるというものはありません。子どもがその活動にどんな意味をもつかがとても重要な力ギになります。

活動の中で「この学級でよかった」「仲間が支えてくれる」「仲間のために

きる」ことがある。など活動の意味を実感したとき、初めて学級の一人としての自覚が芽生えます。ですから、活動の中で意図的に「〜ができたのは、〜さんのおかげだね」「みんなが支えてくれてよかったね」「みんなの力になってね」「その姿がみんなのためになるね」などと、個と集団をつなぐ言葉かけが必要になります。

ただ、いつも集団活動を仕組むことはできません。そんなときに役立つのが、

NLP心理学 に学ぶ学級経営

岐阜市立岩野田小学校教頭 須田敏男

⑨

子どもの集団意識レベルの高まり



学級の一人としての自覚を高める言葉かけ

インパクト

- (努力する仲間を意識させるための衝撃的な言葉を時々贈る)
- ・その姿は、相手の事を真剣に考えていない。
 - ・みんなが決めたことをしないうちで、無責任だ。
 - ・約束を破るなんて、嘘つきだ。
 - ・手助けできない人は、悪いやりのない人だ。等

繰り返し

- (学級の一人を意識する言葉を繰り返せる)
- ・そうだ。そうすることが仲間だ。
 - ・みんなの力で、乗り越えたね。
 - ・学級の仲間として、その姿でいいの？
 - ・素晴らしい。さすが〇〇さん。団体の事を考えているね。
 - ・どんな姿なら、仲間のためになる姿なの？
 - ・仲間を思いやる素晴らしい姿だね。等

個の問題を学級全員で解決する取り組みです。例えば、忘れ物の多い子がいます。「一人の問題でも誰にでも起こりうる問題だ」という立場から、学級みんなが忘

れ物を減らすための話し合いをし、その話し合いの結果として努力する取り組みを決めます。学級の一人としての自覚は、この取り組みへの参加

姿勢となって現れます。そこで、話し合いの後に「一緒に忘れ物を減らす努力をする立場」「努力する仲間を応援する立場」という2つから自分の立場を決めて、学級全員での取り組みを図ります。そして、毎日、必ず帰りの会などで、取り組みの努力を認め合おうと子どもに話します。

しかし、個人の問題ですから、他人事にして、この立場を忘れてしまいがちです。そこで、話し合いの翌日、子どもが自分の立場を自覚しているか確認します。そして、自分の立場を自覚している子どもには「それが、仲間を思いやる素晴らしい姿だ」と承認します。

素晴らしい姿

このように活動とは別に、自分の立場を自覚するための「インパクト」と「繰り返し」の言葉かけをすることで、学級の一人としての自覚を高めることができます。